

学術研究のための火山館利用者による研究成果発表について 「シカとカモシカが山で出会うと何が起きる？ ～気にしないシカと気にしすぎなカモシカ～」

国立大学法人東京農工大学 農学部附属野生動物管理教育研究センターの高田隼人特任准教授（当時 山梨県富士山科学研究所）と浅間山カモシカ研究会の矢野莉沙子氏、鷲田茜氏、渡部晴子氏、大内力氏、菅野友哉氏、手塚夏季氏、下堂前大樹氏、山梨県富士山科学研究所研究部自然環境・共生研究科の中村圭太研究員、麻布大学獣医学部の南正人教授らの共同研究チームは、長野県浅間山麓の高山草原において、ニホンジカ（以下、シカ）とニホンカモシカ（以下、カモシカ）の直接的な交渉を8年間にわたる直接観察調査により記録し、2種の直接的な種間関係を解明しました。

本研究成果は、オランダの行動学雑誌「Behaviour」オンライン版に掲載（6月30日付）されました。

■詳細情報

(1) 研究者

国立大学法人東京農工大学 農学部附属野生動物管理教育研究センター高田隼人特任准教授（当時 山梨県富士山科学研究所）、浅間山カモシカ研究会 矢野莉沙子氏、鷲田茜氏、渡部晴子氏、大内力氏、菅野友哉氏、手塚夏季氏、下堂前大樹氏、山梨県富士山科学研究所研究部自然環境・共生研究科 中村圭太研究員、麻布大学獣医学部南正人教授の共同研究チーム

(2) 研究内容

長野県浅間山麓の高山草原において、ニホンジカ（以下、シカ）とニホンカモシカ（以下、カモシカ）の直接的な交渉を8年間にわたる直接観察調査により64例記録し、2種の直接的な種間関係を解明しました。シカからカモシカへの攻撃は観察されなかったのに対し、カモシカからシカへの攻撃は「歩いて接近」「走って追いかけ」「威嚇声」「足の踏み鳴らし」などの10例が観察されました。ただし、カモシカがシカを実際に追い払えたのは2例のみで、多くの場合シカはカモシカの攻撃を避けてその場に居座りました。お互いが出会ったときに、カモシカは高頻度かつ長時間シカを警戒するのに対し、シカはカモシカに対しあまり警戒行動をとりませんでした。カモシカのシカに対する過剰な反応は採食効率の低下や生理ストレスの増加を通じてカモシカに負の影響を与える可能性が示唆されました。

(3) 市長コメント

シカとカモシカの2種が出会った時の反応の違いは、単純に闘争能力により決まるのではなく、2種の社会性の違いを反映している可能性があることを示した本研究は大変ユニークな発見であり、火山防災と環境保全のために小諸市が設置している火山館を調査研究拠点としていただいたことをうれしく思います。

■問い合わせ先

小諸市役所 商工観光課 観光交流係 担当：関亜依子、田中清継
TEL 0267-22-1700（内線 2211） Eメール kanko@city.komoro.nagano.jp

アサマスタークロスウォーク 2023 参加者募集中（7/31 まで）

アサマスタークロスウォーク実行委員会（実行委員長 山岸 喜昭）は、5年ぶりの開催に向けてコースを大幅リニューアル。銀河ロードと呼ばれる通常夜間通行できない湯の丸高原から高峰高原までの林道などこの日だけの特別コースです。小諸城址懐古園ゴールの40kmコース、高峰マウンテンパークゴールの23kmコースがあります。7月末まで参加受付中です。

